

実績報告書

届出者	住所	大阪市浪速区敷津東1-2-47	氏名	株式会社クボタ 代表取締役社長 木股 昌俊
特定事業者の主たる業種		26生産用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		機械事業（農業機械、エンジン、建設機械等）、水・環境事業（ダクタイル鉄管、バルブ、ポンプ、素形材、精密機器、各種環境プラント等）及びその他事業（各種工事設計・施工等）の3事業セグメント区分にわたって、多種多様な製品・サービスの提供を行っている。 大阪府内に本社所在地がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	117,775 t-CO ₂	114,378 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	126,607 t-CO ₂	123,005 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	5.8 %	-3.7 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6 %	-3.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の事業所の総生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

第2年度(28年度)も設備の高効率化や運用改善などの省エネ活動に取り組んだが、一部の主な事業所における生産量の減少と不良率の悪化およびエンジンの試運転で使用するエネルギーの増加により、温室効果ガスの削減率(原単位ベース)は基準年度比で3.7%の悪化となった。	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社グループの「環境保全中期目標」の中で、CO2排出原単位及びエネルギー使用原単位の削減目標を定め、CO2削減に向けた活動に取り組んでいる。

2014年度に「環境経営戦略会議」を設置し、CO2削減や省エネルギーをはじめとする、環境負荷削減に向けた取り組みを経営層主導で推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺製造所	コード (5221) コンプレッ サー更新	コンプレッサーを更新等する (年間327 t -CO2を削減) (完了)	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効 率タイプへの 更新	A 1 棟本機 2 課 塗装Cライン空調機を 更新する：平成28年度実施 (年間5t-CO2 を削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効 率タイプへの 更新	A 1 棟組立/本 2 空調機を更新する： 平成28年度実施 (年間8t-CO2を削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効 率タイプへの 更新	C 3 棟Bトラ舩装ライン 空調機を更新 する：平成28年度実施 (年間4t-CO2を削 減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効 率タイプへの 更新	厚生棟厨房盛付場 空調機を更新する： 平成28年度実施 (年間5t-CO2を削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1222) ソーラーパネ ルによる発電	太陽光発電を追加する：平成28年度実施 (年間21t-CO2を削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1218) LED照明へ の変更	照明をLED化する (水銀灯) (年間4t- CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効 率タイプへの 更新	C 1 棟本機 2 課 Mトラ舩装空調機を更 新する (年間4t-CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効 率タイプへの 更新	A 1 棟組立課 空調機を更新する (年間 12t-CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1214) コージェネ レーション発 電機の導入	コージェネレーション発電機を導入する (年間141t-CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード(1218) LED照明への変更	【第一工場】 蛍光灯及び天井照明でLED化未実施箇所をLED化する(H28年度実施分で年間13t-CO2を削減)(継続中)	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード(1215) コンプレッサーの高効率化	【第一工場】 導入後30年以上経過した160kWコンプレッサーを、効率の良い物に更新する(H28年度完了、年間37t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード(1113) 生産性向上による待機電力の削減	【第一工場 加工職場】 遊休設備を改造し、ラインT・T短縮(△10秒)することにより、待機電力の削減を行う(年間3t-CO2を削減)(中止)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード(1216) 屋上緑化による空調負荷低減	【第一工場 事務所エリア】 屋上緑化を行い、遮熱効果により空調負荷を低減する(H29年度へ延期、年間1t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード(1126) モーターの高効率化	【第一工場】 設備のクーラントポンプ等を更新し、モーター効率化(IE1⇒IE3)による電力低減△30%を図る(年間15t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(1113) 操業体制見直し、溶解電力低減	操炉見直しによる湯待ち時間の減少を図る(H27年度:92t-CO2削減、H28年度:212t-CO2削減)(継続中)	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(1114) 集塵機の電力低減	集塵機老朽対応による効率向上、濾布(フィルター)の交換による効率向上を図る(H27年度:30t-CO2削減、H28年度:35t-CO2削減)(継続中)	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(1114) コンプレッサーの電力低減	エア漏れ対策等による稼働台数低減、休日エア運用改善による休日の稼働停止を行う(H27年度:2t-CO2増加、H28年度:105t-CO2増加、休日エア停止したが全体使用量増加による削減)(継続中)	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(1121) ガス使用量の低減	金枠等の加熱方法改善による効率向上を図る(H27年度:304t-CO2削減、H28年度:305t-CO2削減)(継続中)	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(1199) 電力負荷の平準化	夏季変則操業、操炉調整による負荷平準化、ピーク電力の低減を図る(H27年度・H28年度:夏季変則操業実施と夜勤シフト実施、負荷平準化によるピーク電力低減を継続中)	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1218) 高効率照明器具の導入(更新)	工場天井照明を高効率タイプのものに更新する(15F仕上職場)(年間17t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
22	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1125) コンプレッサー老朽更新	老朽化した150kW×4台コンプレッサーの更新する(年間29t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
23	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1125) 高効率変圧器への更新	第8電気室変圧器(1000KVA)を高効率変圧器へ更新する(年間11.8t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
24	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1218) 高効率照明器具の導入(更新)	工場天井照明を高効率タイプ(LED)のものに更新する(三次元測定室)(年間1.47t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
25	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1125) 高効率ブローアの導入	集塵機ブローアを高効率タイプのものに交換し電力使用量を低減する(バラシ場集塵機)(年間94t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				

26	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1126) 電気式空調機の導入(更新)	厚生棟3階の空調機を更新による省エネ(年間12t-CO2を削減)(完了)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
27	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1125) 高効率プロアアの導入	集塵機ブロアアを高効率タイプのものに交換し電力使用量を低減する(砂処理環境集塵機)(年間18t-CO2を削減)(完了)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
28	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1125) 高効率プロアアの導入	集塵機ブロアアを高効率タイプのものに交換し電力使用量を低減する(ポリゴン集塵機)(年間38t-CO2を削減)(完了)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
29	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1218) 高効率照明器具の導入(更新)	工場天井照明を高効率タイプ(LED)のものに更新する(溶解、キュボラ、LFP、出荷場)(年間117t-CO2を削減)(完了)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
30	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1199) ファン停止に伴う省エネ	ES冷却ファン停止に伴う電力低減を図る(年間241t-CO2を削減)(完了)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				27年度
31	レ	GHG排出	本社	コード(1111) 電力使用量の抑制	エコオフィス運動を実施し電力削減の進捗確認、対策徹底、強化推進を図る。エコに関する案内「エコ通信」の配信を定期的実施。	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
32	レ	GHG排出	本社	コード(1218) LED照明への変更	本社照明を蛍光灯からLEDに入れ替える(年間64t-CO2を削減、年間125kWhの使用電力の削減)(完了) ※実績(平成28年11月～翌年3月)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				28年度
33	レ	GHG排出	本社	コード(1215) エレベーター老朽更新	エレベーターの老朽更新を実施する(年間29712kWhを削減) 実施期間：平成28年6月～平成29年5月 ※実績(平成28年6月～翌年3月)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
34	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード(1216) 省エネ型空調設備への更新	低効率の空調設備を高効率のものに更新し、使用エネルギーを削減する(H27年度GHP(1台)更新で年間1.75t-CO2を削減、H28年度GHP(1台)更新で年間0.18t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				28年度
35	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード(1216) 省エネ型空調設備への更新	老朽化した吸収式ガス空調機を高効率空調機に更新し、ガス消費量を削減する(H28年度1台更新で年間12.3t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				28年度
36	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード(1218) LED照明への更新	工場照明を水銀灯からLED式に更新する(年間108t-CO2を削減)(継続中)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
37	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード(1218) LED照明への更新	工場照明を蛍光灯からLED式に更新する(年間34t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
38	レ	GHG排出	新淀川環境プラントセンター	コード(1215) コンプレッサー老朽更新	老朽化した3.5kWと7.5kWのコンプレッサーを1台に集約して更新する(年間0.2t-CO2を削減)	26年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				27年度
39	レ	GHG排出	新淀川環境プラントセンター	コード(1215) 曝気ブローアア間欠運転	合併浄化槽の好気槽曝気ブローアアを24時間運転から脱窒の為、8時間運転とする(年間1.5t-CO2を削減)	25年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				27年度
40	レ	GHG排出	新淀川環境プラントセンター	コード(1218) 照明のLED化	研究室4,5の天井照明LED化	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				28年度

41	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(1126) 空調機更新	空調機(10台)の更新による省エネ(年間4.9t-CO2を削減)	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(2114) 点検・維持管理の励行	管理車両の法定及び自主点検を励行し、維持管理の向上を図る(H27年度・H28年度:適切な維持管理の励行を継続中)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	枚方製造所	コード(2123) エコドライブの啓蒙	社用及び通勤車両のエコドライブ推進を推進しリース更新時のエコ車両採用を検討する(H27年度・H28年度:エコドライブの実施を継続中)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード(2113) 社用車の近距離運転の制限他	①自転車やバスを利用し、社用車使用を制限する②エコドライブの推進③乗車毎に車両点検を実施し、不具合あれば都度、整備を実施する(継続中)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	本社	コード(2121) 低燃費車の導入	①社内免許保持者対象の講習会にて、エコドライブについても触れ、エコドライブの実施に努める。②リース更新時ものは、エコ車両採用を検討する(継続中)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード(2123) ドライブレコーダによるエコドライブの推進	ドライブレコーダ設置によるエコドライブの推進を図る(関連会社の社用車18台にも展開)(継続中)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号	氏名	株式会社クボタケミックス 代表取締役社長 田畑 勝治
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>水道・下水・電力通信等、各種用途の塩ビ管・継手、水道・ガス等のポリエチレン管・継手の製造業。（大阪府内の生産拠点は堺工場のみ）株式会社クボタケミックスは、堺工場の他、小田原と栃木に生産拠点あり。</p> <p>また、本社、東京本社、北海道支店、東北支店、中部支店、四国支店、中国支店、西日本支社に販売拠点を持っている。</p> <p>H28.5.1クボタシーアイ(株)から（株）クボタケミックスに社名変更。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,992 t-CO ₂	6,103 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,607 t-CO ₂	6,736 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-3.7 %	0.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-3.8 %	0.2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（生産重量）
（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

	CO2排出量(トン)	生産重量(トン)	原単位
H26年(基準)	5,992	17,393	0.3445
H27年	6,065	16,979	0.3571
H28年	6,103	17,754	0.3438
基準年度比	101.9%	102.1%	99.8%

平成28年度は、生産重量2.1%増に対しCO2排出量1.9%増、原単位は0.3%改善となった。

環境保全中期計画のもとCO2削減に取り組んでいる一方、在庫削減を目的とした段取回数増、新製品開発に伴う試作増、製品構成の変化によるエネルギー効率の低下があり、H28年度削減率は小幅改善にとどまった。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ・環境保全中期計画の中で、地球温暖化防止の一環として、CO2削減等の推進項目を定め、強気に推進している。
 - ・ISO14001環境マネジメントシステムの中で、省エネテーマを毎年度登録し、温室効果ガスの抑制を組織的に推進し、3ヶ月に1回の環境対策会議でテーマ進捗状況を確認・フォローしている。
-
- ・自動車における温室効果ガスの排出抑制対策について、月度毎の燃料使用量、走行距離を把握し、燃料管理を行うと共に、交通安全研修会等の機会を活用しエコ運転啓発活動等を推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 不良率低減による電力削減	不良率低減することにより、粉碎及び再加工に掛かる電力を削減する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 歩留り向上による電力削減	歩留り向上により消費電力の低減を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (5221) 高効率チラーへの更新	R22の全廃規制に対応するため、場内に設置するチラー (11台) を順次、高効率チラーに更新する	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 場内照明のLED化	場内照明のLED化による消費電力の低減	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (5221) 主モーターのインバーター化	押出機主モーターのインバーター化による消費電力の低減	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1225) 金型取り個数変更による原単位の向上	金型取り個数を変更し、生産性を向上することで、消費電力の削減を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (2114) エコ運転の推進	運転前のタイヤ圧状況、急発進・急停止の禁止、走行距離、ガソリン使用量の管理を実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2121) 低燃費車への切替え	車輛の更新時に低燃費車へ切替を実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

本社事務所では、下記のような対策を継続実施している。

- ・蛍光灯の間引き継続
- ・昼休みの消灯
- ・ノー残業デーの徹底
- ・クールビズにて冷房温度28℃の徹底
- ・OA機器の省エネ（省エネ設定、輝度ダウン、省エネプリンタ導入など）

実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市美原区木材通4-15-5	氏名	クボタ精機株式会社 代表取締役社長 町田 賢
特定事業者の主たる業種		32 その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		農業機械・建設機械等の油圧製品の加工及び組立		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,254 t-CO ₂	8,407 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,000 t-CO ₂	9,181 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	4.1 %	-0.25 %	-4.8 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.44 %	-5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(粗付金額(売上金額-材料及び外注加工費))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>原単位基準の粗付金額が基準年(H26)に対し97.2%と減少したにも拘らず、都市ガス使用量が111.2%と大幅に増えたことが大きな要因と成り計画通り削減することができなかった。 引き続き計画達成に向けガスヒューポンの使用管理の徹底による都市ガス使用量削減及び高効率機器の導入、LED化による電気使用量の削減を図り目標達成に努めていきます。</p>	<p>1. H28年度はGHPガスヒューポンを5基更新実施(28%削減/1基当たり(GHP対比)) 2. ガスヒューポンの室内外機清掃の徹底 3. 外灯を水銀灯からLEDランプに交換(8か所)</p>
<p>4. 夜間等電源停止、エアリーク早期対策及び水銀灯の消灯対策等を継続実施した。 電気使用量: 基準年度対比52千Kwh(11.2%)増 都市ガス使用量: 基準年度対比62千m³(0.39%)増</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

IS014001環境マネジメントシステムに則り環境・エネルギー管理組織を構成し、温暖化対策を進めるにあたっては省エネルギー推進委員会を立ち上げ、省エネ対策に継続して取り組んでいます。又、GHP室内外機点検、清掃は別途管理表による専任業者による推進

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1215) 未稼働設備の 電源遮断	休日・夜間等の未稼働設備の電源停止 (継続) 予想効果：15 t-CO ₂ /年	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1216) エアリー漏れ対策	エアリー漏れの早期対策(継続) 予想効果：50 t-CO ₂ /年	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1216) ガスヒーポン 設備の更新	省エネタイプ of ガスヒーポン設備の更新 (15基/3年間) H28年度実績：5基 予想効果：10 t-CO ₂ /1基/年	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1114) 空調機器の清 掃管理	ガスヒーポン設備の室内外機の清掃管理 を行い、効率UP (業者委託) H28年度：管理表により順次実施 予想効果：上記効果に含まれる。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1215) デマンド装置 導入	デマンド監視装置導入によるライン毎の 設備の適切な運転管理を実施。 H28年度：建屋毎に電力の見える化実 施 予想効果：18 t-CO ₂ /年	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1216) 新冷媒採用エ アコンに更新	オフィスエアコンの更新 新冷媒採用エアコンに入れ替える。 H28年度：2台更新済み 予想効果：現行機比CO ₂ 削減50%以 上	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1215) ヒーター内臓 設備の設定温 度調整	洗浄機等ヒーター設備の設定温度60℃ を50℃に下げる。及びヒーター電源停 止 (夏季3ヶ月間) 予想効果：10 t-CO ₂ /年	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1218) 照明機器のL ED化	水銀灯 (400W)、蛍光灯をLEDに変 更する。 H28年度：外灯8台LED化 予想効果10 t-CO ₂ /年	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (1215) 特別高圧受変 電設備の導入	省エネタイプ特別高圧受変電設備の導入 検討。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	クボタ精機 (株)	コード (4210) 2重屋根	空調機の効率UP 2重屋根化 H31年まで順次2重屋根化 H27年度は第2棟西屋根実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
-----	-----------------------------------	------	------	-------	------------------

1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都港区海岸3丁目20番20号	氏名	クラシエ製薬株式会社 代表取締役 古市 貞雄
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		漢方薬を中心とした医療用医薬品と一般用医薬品の製造・販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,138 t-CO ₂	2,968 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,226 t-CO ₂	3,056 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	—	0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3.7 %	7.5 %	21.3 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.4 %	20.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (エキス粉末出来高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>第二年度に21.3%の削減が達成でき、計画達成にむけ順調に取り組みが来ています。今後も環境保全を配慮しながら省エネルギー、CO₂削減を進めてまいります。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムの認証取得をしています。地球温暖化に対して委員会を設置し、毎月、エネルギー使用状況を報告し、現状改善などを検討するとともに環境に関わる従業員教育を実施しており、推進体制を継続しています。又、小集団活動として省エネ活動に取り組んでいます。

推進にあたっては、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに沿って、活動結果を常に検証し、全従業員の意識向上と創意工夫により改善の成果を積み上げています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1111) 温暖化対策の 教育を徹底する	環境マネジメントシステムの運用を徹底し定期的な温暖化対策に関する社内教育を行う。 ・計画期間中は継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1112) データ等の活用によるエネルギー管理の 実施	エネルギー消費動向をデータやグラフ等で把握し、エネルギー管理を行なう。 ・月単位で集計し、使用状況を従業員に報告	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1114) 定期的な検査、点検の実施	ボイラーや市水受水槽、各設備等の定期検査、点検を実施し、良好な状態を維持する。 ・メーカーによる定期的に点検を実施	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1221) ボイラーの更新と計量気機器の設置	灯油の炉筒煙管ボイラーから、ガスの貫流ボイラーに更新を行なう。また、蒸気流量計を設置し、蒸気使用の動向を把握する。 ・平成27年度にボイラー更新済み	27 年度 ～ 27 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1218) 不要なエリアの照明消灯の徹底	工場内で不要な照明の消灯を徹底する。可能な範囲で照明を間引きする。 ・継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1216) 空調温度の徹底	空調温度を夏場は28℃、冬場は20度に設定する。 ・チェックリストにて管理実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1221) 燃料転換	熱風炉の燃料転換 (灯油→都市ガス) ・平成27年度に実施済み	27 年度 ～ 27 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1216) パッケージエアコンの更新	原料保管エリアのパッケージエアコンを省エネタイプに更新 ・空調機更新計画を立案 1台更新実施	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

--

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区久太郎町2-4-31	氏名	倉敷紡績株式会社 代表取締役社長 藤田 晴哉
特定事業者の主たる業種		11繊維工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		繊維素材および2次製品の製造・販売、化成品素材、公害関連装置、電子機器等の製造・販売。全国8工場のうち、大阪府内には特定事業所1工場（寝屋川工場）が稼働。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間															
平成	27	年	4	月	1	日	～	平成	30	年	3	月	31	日	(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,633 t-CO ₂	5,959 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,433 t-CO ₂	6,710 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	6.4 %	10.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.4 %	9.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>当社寝屋川工場は、生産量が増えたにもかかわらず、CO2排出量を基準年度比11.8%削減した。要因としては、継続的な省エネ活動に加え、平成27年9月に導入した冷水供給用冷凍機の省エネ効果が、平成28年度は通年で発揮されたことが挙げられる。また、省エネ性能に優れた先進技術センターを建設し、平成28年2月より技術研究所などの事業所が移転したことで、事務所関係の事業所のCO2排出量も基準年度比8.2%削減された。総合すると、基準年度比10.2%の削減となり、当初設定した目標を大幅に上回る結果となった。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

グループ全体のCSR活動を統括するクラブCSR委員会のもと環境委員会を設置し、グループ全体の環境管理を実施している。また、工場により異なる環境保全の課題に柔軟に取り組むため、環境マネジメントシステム(ISO14001)の導入を推進し、大阪府内の寝屋川工場は2004年に取得している。そして、環境管理レベル向上のため、本社スタッフが定期的に事業所を訪問し、環境監査を実施している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	寝屋川工場	コード(1113) 不要機器の停止	生産工程の都合により、停台している設備について、不要機器の電源を停止している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	寝屋川工場	コード(1113) デマンド管理の徹底	デマンド管理を徹底し、使用電力量の削減を図っている。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	全事業所	コード(1113) 空調温度管理	室温設定を夏季28℃、冬季20℃で管理し、無人室等、不要な空調はこまめに停止している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	大阪本社	コード(1113) エレベータ使用方法の改善	出勤時等を除き、半数のエレベータを休止している。上下2階までは階段使用を推奨し、休日のエレベータホールの照明は節電している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	全事業所	コード(1113) 節電意識の徹底	昼休憩時、無人室を消灯している。また、パソコン、機器類は不使用時に電源を停止している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	全事業所	コード(1215) 省エネ機器の導入	省エネ機器の積極的導入およびインバーター化を推進している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	全事業所	コード(1111) 啓蒙活動の実施	従業員の啓蒙活動・省エネ提案を実施している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	アネックスビル	コード(1199) テナントへの協力要請	テナントへ省エネ協力を要請している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	大阪本社、技術研究所、寝屋川ビル	コード(1113) 照明・空調の抑制	空調運転時間の短縮および終業時以降の強制消灯を実施している。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード(2123) エコドライブの推進	全ての社用車で、運転時にエコドライブを実施している。(アイドリングストップ、急発進、急停車を避ける等。)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				

2	レ	GHG排出	全事業所	コード(2126)	目的地までの効率的なルート選定を行っている。(営業で使用する場合、距離の近い複数の顧客を訪問する等。)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	寝屋川工場	コード(2224)	輸送を委託する際、他社との共同輸送、帰り荷の確保等を検討している。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	寝屋川工場	コード(2225)	輸送を委託する際、製品の重量、形状等を考慮して最適な輸送ロットを決定している。また、輸送量に応じた自動車の使用を要請している。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

1. クールビズ：当社は、1990年代より金曜日の就業時間をカジュアルな服装で過ごす「カジュアルフライデー」を実施・提案してきた。次いで、2004年よりエコロジーへの配慮を加味した「ナチュラルフライデー」を実施・提案してきた。現在は、この活動の発展した形としてクールビズに賛同し、夏季は全社員がノー上着・ノーネクタイで過ごし、冷房費用を節減している。また、実施期間を従来の4か月（6月～9月）から半年（5月～10月）に延長し、より一層の節電に努めている。

2. 休日振替：電力不足に対応するため、当社寝屋川工場の操業日を一部平日から休日へ振り替えることを検討。電力使用量の抑制には当たらないが、電力需要を休日に分散することになり、電力需要が集中する平日の需要緩和に繋がることから、電力不足の対応策として効果的と判断している。

3. 新ビル建設：寝屋川工場内にある技術研究所の建物が老朽化してきたため、省エネ性能に優れた先進技術センターを建設し、平成28年2月より技術研究所他の事業所が入居した。それにより、エネルギー使用効率がより一層向上した。

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区内神田2-3-4 S-GATE大手町北5階	氏名	株式会社グランビスタ ホテル&リゾート 代表取締役社長 須田 貞則
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27年	4月	1日	～	平成30年3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,655 t-CO ₂	3,801 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	3,978 t-CO ₂	4,111 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	削減率 (排出量ベース)	0%	0%	0%	0%
	レ 削減率 (原単位ベース)	3%	2.7%	5.7%	0%
削減率 (平準化補正ベース)		—%	5.3%	6.3%	0%
吸収量による削減率		0%	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (宿泊人員)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

28年度対策は①客室階・宴会場ロビー・食堂店舗内をLED球に順次入替②バックヤード照明間引きによる減灯③空調の適切な温度管理④業務用エレベーター一部停止⑤客室稼働に応じたフロア単位での売り止めによる空調と照明の停止⑥ウォシュレット保温便座夏季停止⑦パソコン・コピー機(複合機)省エネモード設定の徹底によりエネルギー効率が向上しました	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・省エネ実行委員会を設置し、推進を進める。・夏季と冬季の節電要請期間に応じた対策を進める。</p>
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1218)	宴会場ロビー・食堂店舗内順次入替 LED球への入替	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1218)	バックヤード中心に間引きによる減灯 減灯	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1113)	適切な温度管理 こまめな入り切り 営業時間の見直し 空調機器の適切な運転	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1113)	業務用エレベーター一部停止 エレベーター運用見直し	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1113)	客用エスカレーターの一部停止 客用エスカレーター運用の見直し	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1113)	客室稼働に応じフロア単位での売り止め 稼働に応じ売り止め を行い空調と照明を停止	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(1216)	空調温度設定の見直し 温度設定の見直し	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(5231)	パブリックウォッシュトイレ保温便座夏季停止 温水便座保温停止	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード(5113)	パソコン・コピー機(複合機)の省エネモード設定の徹底 省エネモード設定の徹底	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府和泉市テクノステージ 2-3-30	氏名	株式会社クリーンステージ 代表取締役 上山 博司
特定事業者の主たる業種		88廃棄物処理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		産業廃棄物処理業（中間処理） k・kサーモセレクト方式ガス化改質設備による一般廃棄物および産業廃棄物の処理処分業、一般並びに産業廃棄物の再生業および再生品の販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	25,479 t-CO ₂	24,268 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	25,979 t-CO ₂	24,660 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	6 %	20.2 %	13.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	20.1 %	13.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (廃棄物処理量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>平成28年度温室効果ガス総排出量原単位は基準年度に対して13.6%の削減となりました。エネルギー原油換算量では、基準年度と比べ9.2%の使用増加となりましたが、原単位ベースである廃棄物処理量は基準年度と比べて10.2%の増加となっております。</p>	
<p>また、屋外水銀灯のLED化及び不使用機器の停止を行い、温室効果ガス削減を実施しております。</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社運営管理規定に定める「エネルギー管理要領書」の推進組織に準拠するとともに、所長を責任者とする省エネルギー推進会議を1回/3カ月（年4回）開催を行いエネルギー使用量の削減・推進等の検討、月単位のエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量の報告を行っている。また、改善提案制度を取り入れてのエネルギー改善・業務改善の実施を継続して行っている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (1123) 排熱の回収及び有効利用	ボイラー設備にエコマイザー装置の設置 (年間270t-CO2の削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (1126) 電動機の効率化と消費電力削減	ボイラー設備誘引通風機のインバータ化 (年間32t-CO2の削減) H28年度未実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (1126) 電動機の効率化と消費電力削減	施設内外灯（水銀灯）のLED化及びエコ型照明の導入（年間5.22t-CO2の削減) H28年度一部実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (5112) 照明の間引き及び不要時消灯の徹底	事業所内での照明の間引きの徹底及び、照明不要時の消灯の徹底 H27年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (5211) 自家発電の利用	弊社設備で精製・改質されたガスの安定供給を行い、平均1200kw/h以上の自家発電電力量を目指す	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (2123) エコドライブの推進	社用車のエコドライブの実施 (年間0.088t-CO2の削減) H27年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区築港浜寺町4番地	氏名	株式会社クリオ・エアー 代表取締役社長 永野 典郎
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は、空気液化分離プラントにより工業ガスとして液化酸素、液化窒素、液化アルゴン、酸素ガス、窒素ガス、医療用液体酸素、医療用液体窒素を製造しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	48,094 t-CO ₂	47,872 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	55,778 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	1.1 %	2.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>製品引取量が前年度に比べて好調となり、ほぼ年間通じて、プラント稼働するとともに、前年度に引き続き、客先へ窒素ガスを安定して常時供給することができたため、原単位削減を図ることができた。その他、プラント内の照明のLED化を推進している。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

プラントで製造された窒素ガスを有効活用する一環として、前年度に引き続き、顧客へパイプラインで常時供給したこと及びほぼ安定操業できたことにより、電力原単位の削減が図られた。今後も省エネ推進を図り、さらに最適な運転条件の確立を目指し推進する。1回/月定例会議開催（EMS会議と一緒に開催）。第1種エネルギー管理指定工場の定期的な現場パトロール（1回/月）実施

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG 排出	(株) クリ オ・エアー	コード (1225) 引取増に伴う 原単位の削減	関連会社設備の集約化に伴う引取増による原単位改善	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区南船場4丁目 長堀地下街8号	氏名	クリスタ長堀株式会社 代表取締役社長 高橋幸夫
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		「クリスタ長堀 地下街」の運営・管理 床面積 36,400 m ² 店舗数 101 店舗 店舗面積 9,500 m ²		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	9,206 t-CO ₂	8,754 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,257 t-CO ₂	9,735 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	4.8 %	5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.6 %	5.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

主に地下街通路の照明をLED化	
-----------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー使用実績と目標の対比ならびに問題点の抽出と対策の検討

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG 排出	クリスタ長堀	コード (1216) 空気調和設備の導入	高効率モーターに更新	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG 排出	クリスタ長堀	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備 (LED) に更新	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市西区北堀江 1-12-19	氏名	株式会社 栗本鐵工所 代表取締役社長 串田守可
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		鋳鉄管、バルブ、機械、耐摩耗鋳物、建材、化成品の製造及び販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27年	4月	1日	～	平成 30年 3月 31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量		
区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	75,599 t-CO ₂	70,674 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	78,697 t-CO ₂	73,432 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況					
区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (29年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3%	-2%	6.6%
		削減率(原単位ベース)	0%	0%	0%
		削減率(平準化補正ベース)	-%	-1.8%	6.7%
		吸収量による削減率	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 () (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)
--

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

生産量の大幅な減少に対応し、操業体制を変則シフトとした。またキュボラのコークス比向上のための改善を実施し、温室効果ガスの削減を行った。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社(本社・支社店除く)でISO14001環境マネジメントシステムを導入しており、大阪府下の事業所は取得しております。これにより温暖化対策を推進してゆきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード(1215) 省エネタイプの設備に更新	省エネタイプのコンプレッサに更新し、台数制御による省エネも行う。 →H27年度コンプレッサ更新計画検討実施、H28年度コンプレッサ4台更新	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード(1125) 低放射遮熱塗装による加熱炉の省エネ	加熱炉に対し、低放射遮熱塗装を実施することで、エネルギーロスを低減する。 →H28年度検討中(実績なし)。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード(1113) 不良率の低減による省エネ	各部署で不良率の低減を推進管理することにより、エネルギーロスを削減する。 →不良率推移:H26年度2.9%、H27年度3.3%、H28年度1.8%	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード(1215) 設備改善による電気使用量低減	設備改善及び運用管理強化により省エネを推進する。→H28年度実績①コージェネレーション設備更新②ガス吸収式冷温水機更新	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード(1216) 省エネタイプの空調機に更新	事務所・厚生施設における老朽化した空調機について、省エネタイプの空調機への更新を検討、電力の削減を行う。→H28年度検討中(実績なし)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード(5211) 電気からガスへ転換	28年度は大型空調設備EHP→GHPへの切替更新計画無し。来年度以降で計画。 合わせて、点在するスポットクーラを集約し、型室空調機へ更新も計画し検討中。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード(1223) 設備更新による省エネ	高付加価値製品の生産量増加に伴い、生産プロセスでの蒸気使用量が増加。各プロセスにおける蒸気使用量を詳細に把握するため蒸気メーターを設置し、データ取得中。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	堺工場	コード(5112) 省エネ器具への変更	工場天井照明のLED化による電力使用量の削減。昨年度の溶解エリアに引き続き、各作業灯に於いても順次LED化を進めた。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	堺工場	コード(5221) 設備更新による省エネ	ボイラー更新により都市ガスの原単位向上。H28年度は各生産プロセスにおける蒸気使用量を把握するために蒸気メーターを設置。データ取得し、今後のボイラー更新計画も実施する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	堺工場	コード(1125) 作業環境改善と省エネ	溶湯丸取鍋、加熱金型などに断熱塗料、および断熱材追加により作業環境改善と省エネを目指す。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	堺工場	コード(1111) 推進体制の整備	環境マネジメントシステムの運用による省エネ活動の推進 部門毎に各年度の省エネ目標を立て、計画的に活動。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

12	レ	GHG排出	堺工場	コード(1111) 推進体制の整備	環境管理委員会による成果の確認と情報の共有化、及び活動のバックアップ 毎月の会議にて活動の進捗管理を実施。 是正処置、予防処置により目標達成を目指す	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	堺工場	コード(1113) 管理標準の効果的運用	管理標準の運用徹底と定期的な見直し (有効性の確認) 管理標準の運用に問題がないことを定期的に確認。新設設備の管理標準について 新設は作成し管理する	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	堺工場	コード(5121) 操業体制変更による省エネ	操業体制の見直し(鋳造工程の操業日を 集約し、エネルギーロスを削減する。一 部夜勤操業への移行)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	堺工場	コード(5999) 電気需要の平準化対策	電気需要平準化時間帯における 節電活動項目の設定と運用 不使用設備の停止、空調フィルターの清 掃、照明の削減など。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	堺工場	コード(5131) 節電意識の啓発	電気需要平準化時間帯における 節電パトロールの実施(2回/月) 毎回、役付者4～5名にて実施。工場全 エリアをパトロールし、改善指摘。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	住吉工場	コード(1113) 空調設備の運転管理	冷暖房設定温度の徹底 →温度管理の徹底を実施	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	住吉工場	コード(1199) 改善活動の推進	改善活動を通じた作業工数短縮による使用 電力量の削減 →工場照明の更新を実施	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	交野工場	コード(1113) 基準以上の照度を有する作業場におい て、蛍光灯の 交換	基準以上の照度を有する作業場におい て、蛍光灯の間引きと継続。(82本) 不要な水銀灯・蛍光灯器具の取り外し (継続)。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	交野工場	コード(1113) 照明設備及び パソコン電源 の節電	400W水銀灯12台をLED型131W×6台とLED 蛍光灯45W×7台へ取替。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	交野工場	コード(1199) 節電意識の啓 発	夏冬別に省エネ・節電活動項目を設定 し、エアコン使用期間・設定温度の厳守等の 節電意識を高揚させる。使用されていな い蛍光灯、扇風機の指摘で節電の徹底。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
22	レ	GHG排出	交野工場	コード(1199) 節電意識の啓 発	冷暖房設備に加え扇風機に依る冷暖気の 対流・拡散を実施。コンプレッサ機の直射日 光防止よしずの設置。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
23	レ	GHG排出	交野工場	コード(1199) 節電意識の啓 発	冬季の工場内冷蔵庫の使用中止。昼食は 食堂にて取得させ、各作業場で使用する 冷暖房と照明の消費電力を削減。 南側ガラス窓に遮熱フィルムを貼り、冷 暖房費用を削減を図る	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	住吉工場	コード(2113) 自動車の使用 管理	アイドリング禁止PR →実施している	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード(2123) エコドライブ の推進	本社の全車がエコドライブを実施する →実施している	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	福岡県久留米市東櫛原町353番地	氏名	久留米運送株式会社 代表取締役社長 二又 茂明
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		総合物流企業として、全国に63店を展開し、内3店を大阪府内で事業しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	2,495 t-CO ₂	2,515 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,564 t-CO ₂	2,539 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	1.1 %	-0.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>エコドライブの推進や新長期規制適合車の導入等により、自動車分野における燃料使用量の削減に取り組みましたが、貨物量の増加に加え、お客様サービスの更なる向上を図るために、他社備車の自社化を推進した結果、燃料使用量が増加したため、温室効果ガスの総排出量削減には至りませんでした。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的な環境対策として、「天然ガス車への代替」、「排ガス規制適合車への代替」、「車載機器導入によるエコドライブ、安全運転の推進」等を実施及び計画致しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪支店	コード (1113) 冷暖房運転管理の徹底	冷暖房の温度設定の社内規制及び運転稼働日の削減。冷房は28度、暖房は21度を保ち、年間稼働日数を30日削減する。年間使用量を235千kWh以下にする。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	北大阪支店	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を実施した。ポスト新長期規制適合車を1台導入した。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	大阪支店	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を実施した。ポスト新長期規制適合車を2台導入した。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	東大阪支店	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を実施した。ポスト新長期規制適合車を4台導入した。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策
